

業績推移(単体情報)

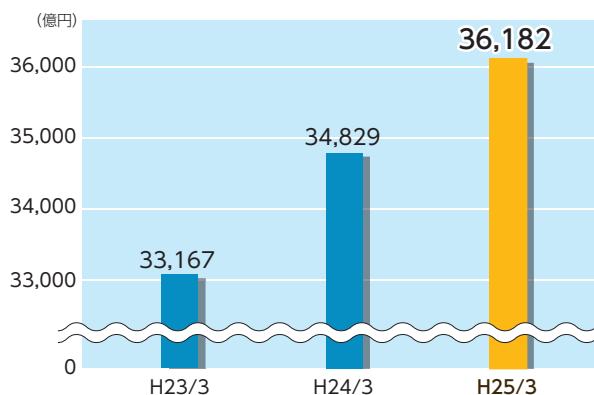
業績ハイライト

平成25年3月期の業績につきましては、銀行本来の業務である預金や貸出金の残高が順調に増加する一方で運用利回りの低下に伴う資金利益が減少したこと等により、コア業務純益は、13億38百万円減少し267億93百万円となりました。一方、株式等関係損益が改善したこと等により、経常利益は249億88百万円、当期純利益は150億27百万円となり、いずれも過去最高益を計上しました。

● 預金残高

年間増加率3.8%!

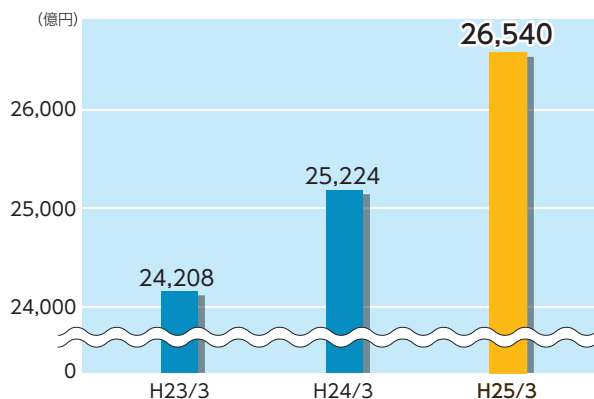
給与振込や年金振込口座の取引拡大に積極的に取り組んだ結果、個人預金を中心に預金残高は年間で1,353億円増加し、3兆6,182億円(年間増加率3.8%)となりました。



● 貸出金残高

年間増加率5.2%!

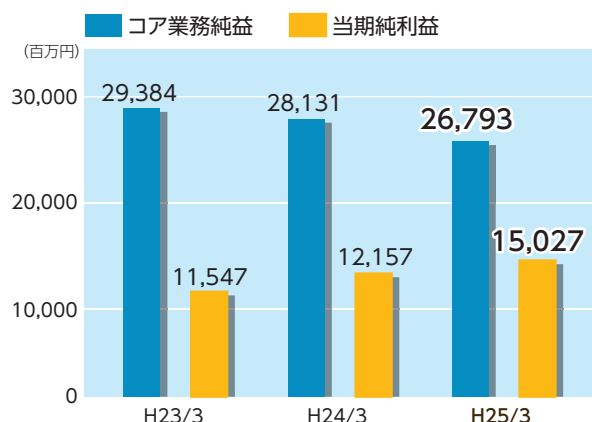
住宅ローンを中心とする個人向けや、県内企業向けの貸出に積極的に取り組んだ結果、貸出金残高は年間で1,316億円増加し、2兆6,540億円(年間増加率5.2%)となりました。



● コア業務純益・当期純利益

当期純利益は前期を28億70百万円上回る150億27百万円となり、過去最高益となりました。

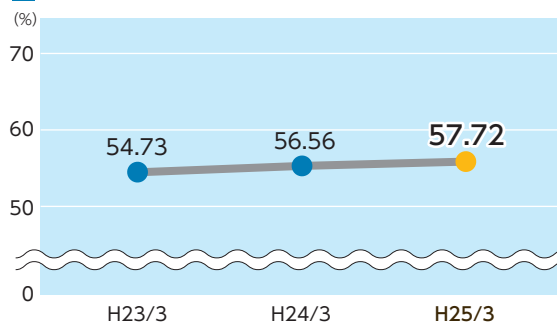
$$\text{コア業務純益} = \text{業務純益} + \text{一般貸倒引当金繰入額} - \text{国債等債券損益}$$



● OHR・経費率

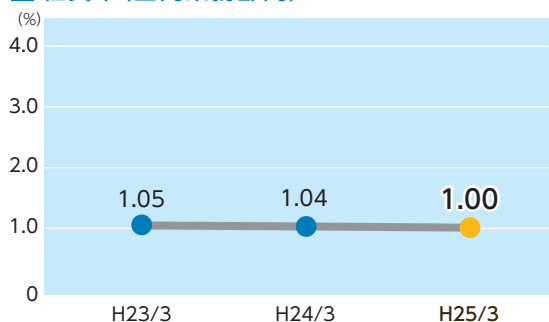
OHRおよび経費率は低い水準を維持し、効率的な経営を行っています。

■ OHR



$$\text{OHR} = \frac{\text{経費 (臨時的経費を除く)}}{\text{コア業務粗利益}}$$

■ 経費率 (国内業務部門)



$$\text{経費率} = \frac{\text{経費 (臨時的経費を除く)}}{\text{預金・譲渡性預金の期中平均残高}}$$

※OHRおよび経費率は、数値が小さいほど効率性が高いことを示します。

● 自己資本比率

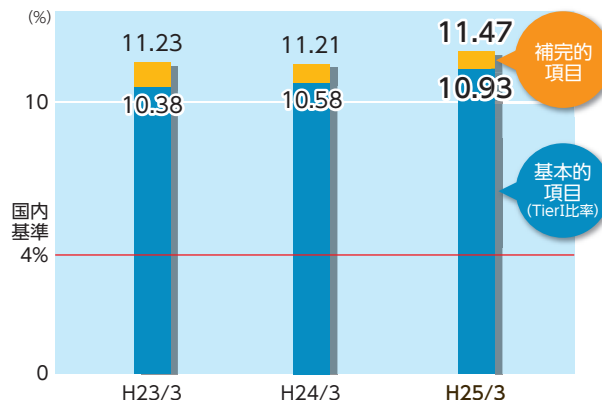
自己資本比率は11.47%であり、拠点を国内に限っている銀行の基準である4%をはるかに上回っています。また、基本的項目 (TierI比率) は10.93%であり、資本の質は極めて高い水準を維持しています。

● 基本的項目とは？

資本金・剰余金などの、本来の自己資本のこと。

● 補完的項目とは？

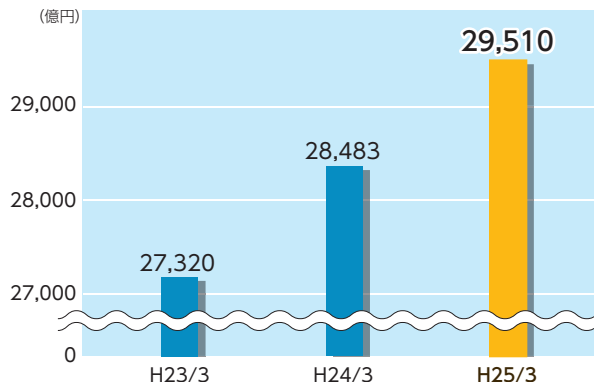
一般貸倒引当金・土地の含み益の一部など。



業績推移 (単体情報)

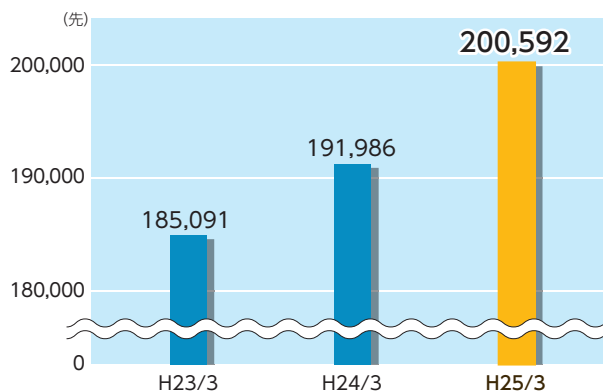
● 個人預金残高

年金受取指定先数および給与振込指定先数が順調に増加したこと等から、個人預金残高は年間で1,026億円増加し、2兆9,510億円(年間増加率3.6%)となりました。



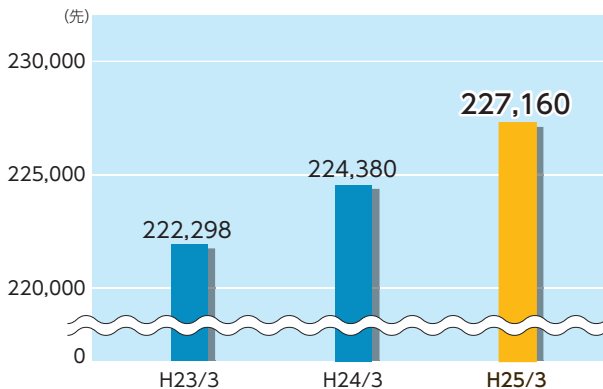
● 年金受取指定先数

社会保険労務士による個別年金相談会や年金セミナーを開催し、複雑な年金制度の説明や年金請求書作成等のサービスなどが、ご好評をいただいています。年金受取指定先数は年間で8,606先増加(年間増加率4.4%)しました。



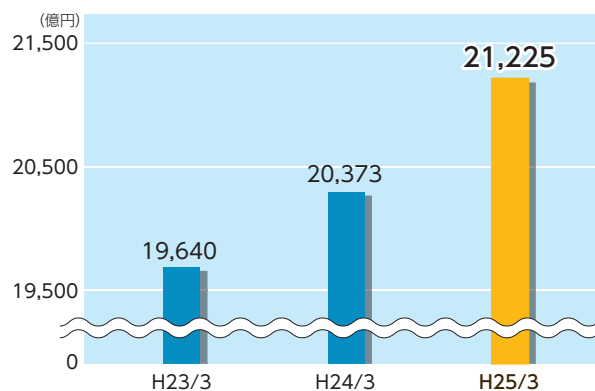
● 給与振込指定先数

住宅ローンをご利用のお客さまを中心に給与振込のご指定をいただいています。また、若年層の方々に向けた給与振込のキャンペーンも実施しています。給与振込指定先数は年間で2,780先増加(年間増加率1.2%)しました。



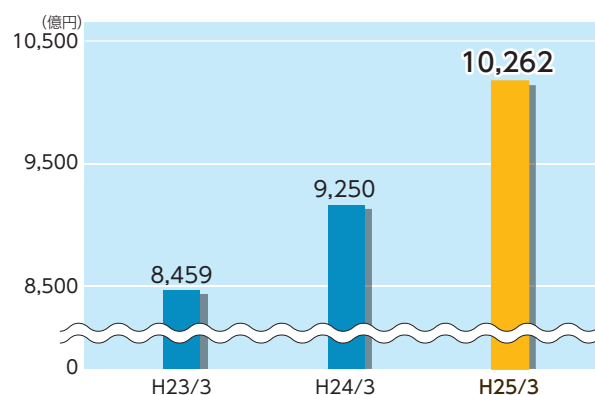
● 中小企業等向け貸出金残高

中小企業等向け貸出金残高は年間で852億円増加し、2兆1,225億円(年間増加率4.1%)となりました。



● 住宅ローン残高

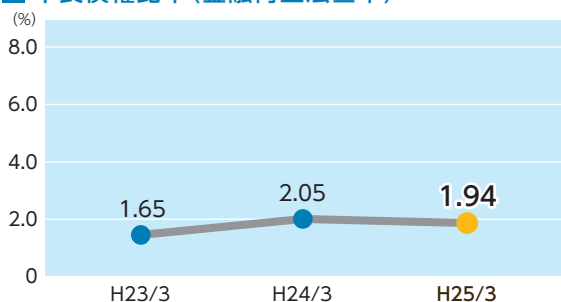
お客様の住宅資金ニーズ(新築、借換え、リフォーム等)に積極的にお応えした結果、住宅ローン残高は年間で1,011億円増加し、1兆262億円(年間増加率10.9%)となりました。



● 不良債権比率(金融再生法基準)

金融再生法基準の不良債権比率(単体)は前期比0.11ポイント低下し1.94%と引き続き高い健全性を維持しています。また、不良債権に対する保全状況はカバー率86.40%と今後の損失発生に備え十分な水準にあります。

■ 不良債権比率(金融再生法基準)



■ 不良債権の保全率

